

「武道への思い」

金沢は今なお武家文化が息づくまち、その精神が「文化」や「武道」に受け継がれています。石川県立武道館の役割や、武道への思いについて、今も柔道着で稽古に励む、柔道四段 徳田伸一館長にお聞きしました。

徳田伸一 旧鶴来町出身 金沢市野町在住
S33 年 6 月生まれ（64 歳）



金沢大学教育学部高等学校教員養成課程（保健体育）卒業
（柔道部キャプテン）

大学卒業後、中、高の体育教員を経て、
錦丘高校教頭、県体協事務局長（現県スポーツ協会）、県教育委員会スポーツ健康課長を務め、伏見高校校長で定年退職。
定年退職後、民間企業や特殊法人での勤務を経て、令和2年4月より現職

高校教員時代（平成7年）に全国高体連柔道部の派遣により、米国コロラド州・ワイオミング州の柔道クラブで子どもから大人まで指導

石川県公立武道館協議会会長、全国都道府県立武道館協議会理事
日本武道学会北信越支部理事、石川県柔道連盟参与
柔道四段、剣道初段

●武道との出会いについて教えてください。

【ほめちぎり作戦】

生まれも育ちも旧鶴来町、テレビゲームもスマホもない時代、寺や神社の境内、野山、手取川が遊びのフィールドでした。また、家ではかつて海軍の戦艦「伊勢」で相撲部のキャプテンをしていた祖父から相撲の話を聞く（聞かされる）というのがルーティーンでした。

そして、鶴来中学校に入学し、もし相撲部があれば祖父から入らされていた可能性があります。入学直後、たまたま友だちと一緒に見学に行った柔

道部で、優しい笑顔の3年生のキャプテンからいきなり柔道着を着せられ、「すんげえ似合うなあ」とほめちぎられ(たぶん細身の体に柔道着は全然似合っていませんでしたが、新入部員確保の戦術に見事ハマりました)、「今日は見学だけです。」と小学校を卒業したばかりの少年には口にする勇気もなく、「すんげえ上手いなあ」を連発されながら(初めてのことばかりで上手いはずありませんが・・・)、いつの間にか先輩たちと一緒に技の練習をさせられ、そのままその日から柔道部員になってしまいました。

以後、高校、大学と柔道を続け、64才になった今も時々柔道着を着ている原点は、中学入学早々に受けたあの「ほめちぎり作戦」でした。この作戦に出会わなければ、柔道とは縁のない人生になっていたのではないかと思います。そのキャプテンは背負い投げがとても上手く、人間的にも素晴らしい方で、今でも年賀状のやり取りは続いています。

【武道DNA？】

柔道以外の武道経験については、相撲(石川郡中学校相撲大会個人戦で準優勝)、剣道(大学時代の剣道授業で元全日本選手権優勝者の先生から指導を受ける / 30才台、元警視庁剣道師範から形を学ぶ)、合気道(大学時代に合気道部のキャプテンをしていた同級生から基本の基本を教わる)、空手(30才台、空手教室に通う)、弓道・なぎなた(60才台、武道館に着任後、武道専門員より学ぶ)。

期間の長短はありますが、柔道を含め、これまで7つの武道を経験してきました。今、考えると三度の飯より相撲が好きだった祖父の武道DNAを受け継いでいたのかもしれませんが。「強さ」は全く受け継いでいませんが(笑)。

●県立武道館について教えてください。

【けんりつぶどうかんって何するところ？】

県立武道館を日頃から利用している武道関係者にとっては、よく知っている身近な施設ということになるかと思いますが、以前に何人かの知人から「けんりつぶどうかん」って何をするところ？ どこにあるの？・・・などを聞かれたことがあります。

それもそのはず、武道と直接縁のない人にとっては、知らないのも無理はありません。「ぶどう」と聞いて食べるぶどうを一瞬想像した人もいるのではないかと思います(笑)。

そこで、県立武道館についてのご紹介ですが、武道愛好者による活用と日本古来の伝統文化としての武道振興に資するという目的で、金沢市小坂町地内に昭和53年9月に竣工しました。建物の一部には、石垣(金沢城

と同じ赤戸室石）、白壁、狭間、黒瓦など、城を思わせる城郭建築も用いられており、そうした日本の歴史や奥深さを感じながら稽古ができる場として、竣工以来多くの方々に愛され、親しまれ続けてきました。

五階建ての本館には柔道場（三面）、剣道場（四面）、弓道場（近的・遠的）、また、本館横には屋内相撲場（本土俵一面・練習土俵二面）、そして、分館として兼六園弓道場、卯辰山相撲場を有し、各施設では各種大会の他、強化練習、講習会などが行われております。特に大きな大会としては、卯辰山相撲場で行われる高校相撲金沢大会が有名です。



武道館本館



屋内相撲場

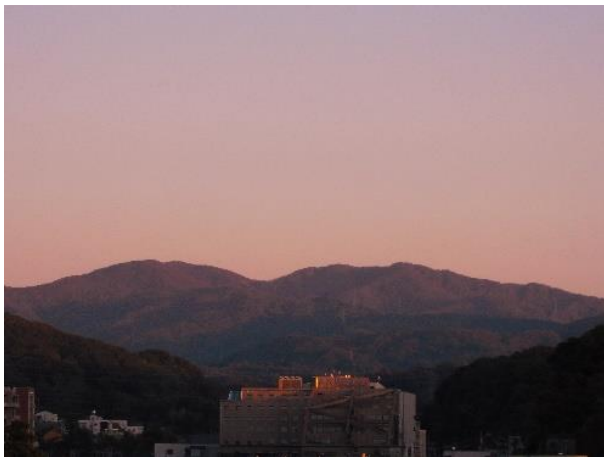


兼六園弓道場

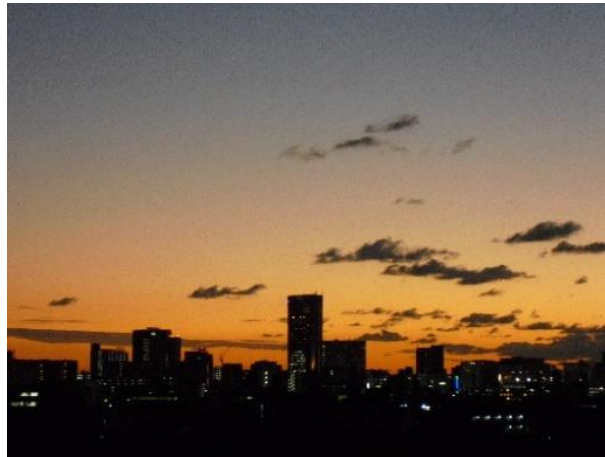


卯辰山相撲場

また、本館上層階から見える四季折々の医王山の姿や金沢駅方向の夕焼け、そして、敷地内の見事な紅葉など、当館ならではの絶景は、稽古の疲れも癒してくれます。



医王山



金沢駅方向の夕焼け



紅葉に包まれた屋内相撲場



黒瓦・もみじ・雨

玄関ロビーでは、書初め、節分、五月人形、鯉のぼり、七夕飾りなど、日本の伝統行事をその時期に合わせて紹介しております。来館者の皆さんから「季節を感じる」、「なつかしい」、「武道館へ来る楽しみが増えた」などと喜ばれています。



武道教室生書初め展



五月人形

また、来館者へのサービス向上の一環として、今年5月、館内の一角に「武道ライブラリーコーナー」を開設しました。武道関係の雑誌、入門書、エッセー、評論など、活字からも気軽に武道に親しんでいただける場

としました。絵本も並べ、子育て世代の皆さんからも好評をいただいています。



武道ライブラリーコーナー

【武道を楽しんでいます】

当館が主催する武道教室（柔道、剣道、弓道、なぎなた）についてですが、子どもから大人まで武道を楽しんでいただけるよう指導にあたっています。特に子どもたちに対しては、技術のみならず「挨拶」や「思いやりの心」など人間形成についても丁寧に指導することとしております。

また、一般の方々に対しては、稽古を通して明日への元気や活力につながり、生き生きと健康に過ごしていただけるようサポートさせていただいています。

年間を通して教室生を募集しており、全くの初心者でも安心してご参加いただけます。これまで多くの初心者が段位を取得され、その後、生涯武道として稽古に励まれています。お気軽にご見学ください。



柔道教室



剣道教室



弓道教室



なぎなた教室

●館長の武道に寄せる思いについてお聞かせください。

【武道の持つ大きな力を多くの人に・・・】

日本の素晴らしい伝統文化である武道を受け継ぎ、発展していく場所としての当館の基本的スタンスは今までと変わるものではありません。そうした中で、私は現代において武道に励む意味は、人間形成や、自己啓発、目標達成(段位、試合成績など)、新たな自分発見、生きがいきづくり、健康づくり、仲間づくりなど、その人の豊かな人生、幸せな人生(まさに道)を追求していくための方策の一つではないかと考えています。

もちろん勝敗を競うことにも重要な意味もあり、また、日々の稽古のモチベーションにもつながるものだと思いますが、そののみが武道に励む目的となった場合、実にもったいないことではないかと思えます。武道の素晴らしさ、面白さ、奥深さをぜひ多くの皆さんに味わっていただきながら、豊かな人生、幸せな人生につながれば、現代において武道に励む意義も一層高まるものと思います。

まさに武道には大きな力があり、この「武道の持つ大きな力」を一人でも多くの方に享受していただきたいというのが、これまで武道にかかわってきて思うところです。

そうした観点からも当館で武道教室の指導にあたる武道専門員の指導力(技術だけでなく、武道の素晴らしさ、面白さ、奥深さなどについて幅広い年齢層に伝えることができる指導力)の向上を図っていくことも重要な課題であり、引き続き研修の充実を図っていききたいと思っています。

【外国人にも親しんでいただける武道館】

武道精神を含め、その魅力に惹かれる外国人も少なくありません。県立武道館が位置する金沢は、加賀藩から続く歴史と文化が現代にも息づき、世界的にもその注目度は高まっています。この武家文化を体感することが

できる金沢という特別な舞台で、県内在住の外国人や訪日外国人旅行者が日本の伝統文化である武道に触れていただくことは、極めて魅力的かつ意義あることだと思います。そのことは、武道そのものの理解にとどまらず、より深く日本や日本人に対する理解も深まるものと考えます。



サツキが咲き誇る弓道場



敷地内のヤマザクラ

そうした中、スポーツ庁が推進する「武道ツーリズム」についても、城をイメージする城郭建築が用いられるとともに四季折々の自然を感じることができる当武道館がお役に立てれば幸いなことと思っています。

金沢には「金沢文化スポーツコミッション」という豊富なノウハウと多方面にネットワークを有する非常に心強い組織があります。「武道ツーリズム」の実施に向けても、その存在感を示していただけるものと期待しております。

当館としても職員一丸となって、ハード・ソフトの両面から安心・安全でより使いやすい武道館を目指していきたいと思っています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



来館者を迎える玄関の花々